

編集 後記

日本公衆衛生雑誌第70巻7号では、原著2編、資料2編が掲載されています。どの論文も健康に関する人々の気持ちや心を覗いてみるような内容です。

廣田らの論文では、2011年に起こった福島第一原子力発電所の事故の健康影響について、放射線は体に残るのか、放射線で傷ついた細胞のDNAは修復できるのかといった知識が、次世代影響への不安に関連していることを明らかにしました。長期的に続いている放射線の次世代影響への不安の中身を、より詳しく理解することができる知見です。中本らの論文では、人材不足が深刻な介護の現場で高齢の介護助手に活躍してもらう上で、本人たちが仕事に様々なメリットを感じていること、自分自身の健康や時間活用にメリットを感じていることが、気持ちの消耗感の低さと関連していることを明らかにしました。長く働くためには、その人なりのやりがいが必要であることが分かります。柳沢らの資料は高齢者の口腔の健康に注目して、その収入との関連を心理社会的な背景要因が媒介することを示唆するデータを報告しています。歯科と低所得者支援、そこに心理社会的アプローチを結びつける新しい協働の必要性を提案しています。最後に澤谷らの資料では、最近頻用されているウェアラブル端末の睡眠支援への有効性を検討しました。興味深いのは、おそらくデジタル機器自体の効果ではなく、その機器を装着するという行為の効果として、早寝と就寝前に明るいところへの外出を控える傾向が見られたことです。

健康と気持ちや行動のつながりは面白いと当たり前のことを考えながら、読んだ論文とは全く異なる、研究や議論が近年進んでいる placebo effect のことを思い出しました。幅広いテーマを扱う本誌ですが、たまたま集まった同じ冊子の論文に共通するテーマを見つけることも多々あり、自分の専門分野に限らず様々なことを考えるきっかけになります。皆様の引き続きのご投稿をお待ちしています。
(後藤あや)

次号予告 (第70巻・第8号)

特別論文

ICTを活用したメンタルヘルスケアサービスのエビデンス構築と社会実装方策…神野真帆, 他

総説

Vaccine hesitancy (ワクチン躊躇)の現状, 関連要因, 評価, 対策……………町田征己, 他

資料

全国地方自治体で実施されている父親を主な対象とするポピュレーションアプローチ事業の実施状況調査結果報告……………高木悦子, 他

特定健康診査の標準的な質問票において咀嚼状態不良と回答した者と職業の関連性……………谷直道, 他